

コラム

芦屋の伝説「打出の小槌」



「打出」の地名は、その地が旧西国街道が京から南西に下って初めて海岸に打ち出る場所であることから名付けられたと考えられています。その打出村にまつわる次のような伝説があります。

昔、打出村にお金持ちの長者が住んでいました。長者はひとつの宝の小さな小槌を持っていました。その小槌を打ち振ると何でも願い事がかなえられるという宝物でした。

この小槌は、もとは打出の沖にすんでいた竜の神様が持っていたものだと伝えられ、竜の神様が人間の姿になって、朝廷に差し上げたものだとされていました。どのようにして長者の手に入ったかはわかりませんが、昔、都で仕えていた時に手柄を立てたので、褒美にもらったのだらうといわれていました。

この小槌はこの上ない宝物でしたが、ただ一つ困ったことに、鐘の音が聞こえてくると、それまで打ち出した宝物のすべてを失ってしまうそうです。

コラム

打出焼

打出の地は古くから壁土の産地として知られ、明治時代の中ごろには芦屋の先覚者である齊藤幾多が、その特有の粘りや土質の良さに着目して陶工を招いてお庭焼の窯を築きました。明治42年(1909)には、春日町21番に登り窯を築いて京焼の祖といわれる野々村仁清の流れをくむ阪口庄蔵(初代砂山)に継承され、「打出焼」と称し、茶器や花器等の渋い作風は、広く京阪神の人々に愛用されるようになりました。原料の粘土の不足は、信楽・京都方面の土を混入して補いました。

戦中・戦後の不況が重なる中で、初代砂山が没し、2代目として阪口淳が窯元を継ぎ「打出焼」の普及に努力を続けましたが、昭和40年ごろに製作は中止されました。



打出焼の刻印「うちで」
(長さ11mm、幅6mm)



芦屋の文化財 ⑤

芦屋市には長い歴史があり、さまざまな文化財が残されてきました。現地に行けば実物や解説板等により、その存在を確認できる市内の文化財を取り上げています。

※生涯学習課発行の『芦屋の文化財ハンドブック』を広報国際交流課が再編集して紹介しています。

古墳時代中期末(5世紀末)に築造された墳丘長約58mと推定される市内最大の前方後円墳ですが、



打出小槌古墳

室町時代(15世紀後半)〜16世紀初頭の耕作地開発によって、墳丘は完全に消滅しました。発掘調査によって周濠が見つかっており、埴輪や葺石等が出土しています。前方部の発掘調査後に建設されたマンションの入り口部分には、解説板が設置されています。

なお、この付近には打出小槌遺跡も分布しており、市内最古の遺物である後期旧石器時代(今から約2万年前)の国府型ナイフ形石器が出土しています。

国登録有形文化財 旧松山家住宅松濤館



現在の芦屋市立図書館の打出分室です。この建物は明治時代に大阪に建設された銀行の建物(逸身銀行)説、「東京貯蔵銀行大阪支店」説等があります。松山與兵衛氏が美術品を収蔵するために購入し、昭和5年(1930)に現在の場所に移築したものです。その後、昭和29年(1954)〜1987)までは芦屋市立図書館本館として、平成2年(1990)からは図書館打出分室として利用され、現在に至っています。

広告

KOBELCO 神戸製鋼グループ

神戸製鋼グループが運営する介護付有料老人ホーム

便利でありながら閑静な住宅街、神戸市東灘区に立地。

ELEGAN KONAN
介護付有料老人ホーム
(一般型特定施設入居者生活介護)

見学会開催
2016年2/22日
11:00~14:00
(参加費:1,000円/人 昼食付)
詳しくは下記フリーコールまで

※入居状況により見学会は共用部のご案内になる場合もございます。

0120-65-8208

神戸製鋼グループ(神戸製鋼所85%出資)
〒658-0015 神戸市東灘区本山南町3丁目3番1号
TEL:078-411-9600 FAX:078-411-9674
http://www.s-carelife.co.jp

地域密着型 介護付有料老人ホーム (芦屋市民の方限定)

見学会 随時受付中
お気軽にお電話ください。
TEL0797-23-1200

社会福祉法人 緑水会 介護付有料老人ホーム
芦屋アラベラの家

〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町9番1号 ホームページ 芦屋アラベラ 検索 2014年4月開設